

『関西企業ヒストリア』 ～その強さの秘密・転換点を探る～

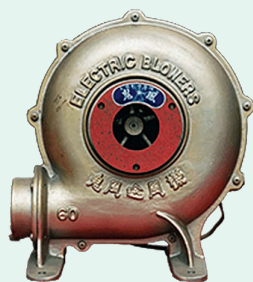
創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取り上げ、時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

第15回 創業 1925年(大正14年)

株式会社 赤松電機製作所

小型発動機から乾燥機へ —商標「鬼風」の誕生

1925年▶ 日本でラジオ放送が始まった1925年、赤松光三が大阪市浪速区敷津にて電気製品修理の赤松製作所を創業しました。1936年頃より、ラジオ、小型モートル及び送風機の製作を開始し、後に電気用品小型発動機の製造免許も取得しました。



当時の送風機

その後1939年に第二次世界大戦が始まると、海軍砲兵工廠などの備品製造を経験し、終戦後は民需製品を主に製造していました。戦後の復興期には、友人の出身地である岡山のたばこ農家向けにポータブル灯油乾燥機を製造すると、たちまち話題となり、ミゼットに積み込んだ製品を大



阪から岡山までピストン輸送するほど人気を博しました。現在の赤松電機製作所の基盤である「風」を軸足にしたものづくりは、この頃スタートしました。同時に、今も使われている商標「鬼風」も誕生しました。

看板に「鬼風」の文字が確認できる。

バブル景気が始まった1987年、社長のバトンが光三から昭次に受け渡されました。1952年に販売した日本初の家庭用ミキサーなどヒット商品の存在もあり、気運が高まっていた中での世代交代でした。

バーナー用ルーツブロワーの製造販売や、いくつかの特許取得を経て、大阪ガスからの依頼でガス湯沸かし器用組み込み型送風機の共同開発に着手しました。開発が成功すると、今度は出荷が深夜にまで及ぶ忙しさに見舞われましたが、従業員一丸となって乗り越えました。



日本初の
家庭用ミキサー



ここが
転換点

オイルミスト除去装置「オニカゼ ヘビースモーカー」の量産開始

1994年▶ しかし、この嬉しい悲鳴は永遠に続くものではありませんでした。時代が移り変わるとともに同業者が乱立し、価格競争の激化と同時に仕事はどんどん減っていきました。「新しいことを始めなければ…」従来の下請け中心のものづくりに見切りをつけ、新製品の開発に挑戦しました。

新しいことを始めるとしても「風」のノウハウは継承し、これを活かす方法はないか。辿りついた答えが“壊れにくいオイルミスト除去装置”でした。

オイルミストとは空気中に浮遊する油滴のことで、工業機械に用いられる潤滑油が、その機械の稼働によって飛散

されることによって生じます。もやのような状態で工場内に充満する有害なオイルミストは、眼や皮膚、呼吸器系に悪影響がある他、引火のリスクや、蓄積したオイルミストによって作業者の転倒を引き起こすなど、様々な危険性が指摘されています。

この頃、京都議定書採択の影響もあり、環境問題に取り組もうという世論の動きが高まっていました。また ISO14000 シリーズの発行もこの頃から開始され、作業現場の環境改善が謳われるようになっていました。

「新製品を作るなら、何か世の中の役に立つものを」そう考えていた昭次は、満を持して壊れにくいオイルミスト除去装置の開発に取り掛かりました。しかし、苦心して完成させた高性能オイルミスト除去装置「オニカゼヘビースモーカー」第 1 号の初年度納品台数はたったの 70 台。肩を落とす暇もなく、試作品の試験や改良を繰り返し、営業活動にも力を注ぎました。その結果、翌年は 600 台以上を売り上げ、下請け中心メーカーから独自製品を手掛ける企業へとシフトしました。



初期の「オニカゼヘビースモーカー」

既存のオイルミスト除去装置との差別化を図るため、オニカゼヘビースモーカーには集めたオイル (0.3 ミクロン以上) を再利用できるという大きな特徴を付けました。そしてフィルターなど内部の部品のサイズを同じにすることで、モデルチェンジをしても、メンテナンス時に従来機との互換性が保てるよう作られています。

また、従来の電気式ではなくフィルター式にしたのには、「顧客視点で良いものを作りたい」という昭次の思いからでした。ミストの捕集効率を上げるためには、場合によっては高価な素材の使用 (高性能フィルタ) が必要になります。そこで、ランニングコストを少しでも削減するため、集塵原理のほぼすべてを加味した 5 段階ミスト捕集構造を採用しました。すなわち、大きなミスト粒子から段階を踏んで

捕集することにより、最終段階の高性能フィルター部の負担を軽減し、メンテナンス周期をより長くすることが可能になったのです。この 5 段階ミスト捕集構造により、0.3 ミクロンのミスト粒子を 99.93% 捕集することを実現しました。



ミストコレクター「オニカゼヘビースモーカー」

受け継がれる顧客目線でのものづくり

2014年▶ かつてオニカゼヘビースモーカーの開発販売に着手することを決めた時、昭次は社員を集めてこう言いました。「毎日ドロドロになって働いても、ボーナスの袋開けてみたら、大手企業の 2 分の 1。こんなアホらしいか？一緒にもうちょっと厳しい山登ろうや」。その時、社内からの反発は一切なく、自社ブランドの確立に向け、全社一丸となって新たなスタートを切りました。

2014年には赤松竜太郎氏が代表取締役社長に就任し、顧客目線に立つものづくりを継承しています。現場では、大阪市内の限られた空間を活かすため、その日に納品された部材で当日製造し、翌日出荷するジャストインタイム方式をとっています。全員参加の業務改善活動も活発で、社員自作のドリルボックス、レイアウト変更しやすいキャスターワゴンなど、工場内の随所に工夫が見られます。

2025年には創業 100 年を迎える同社。独自の「風」の技術で、より良い環境を提供し続けます。

ONIKAZE[®]

株式会社 赤松電機製作所

株式会社 赤松電機製作所

本社所在地：大阪府大阪市東成区深江北 1-17-24 資本金：1,000 万円

事業内容：小型モートル、送風機、

環境機器 (ミスト除去装置、ヒュームコレクター) 等の製造